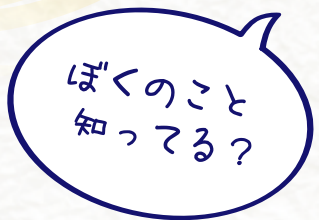




蘇民人形

SOMINNINGYO

担当 横山舞



蘇民将来子孫

- 寸法: 幅4.0cm × 高さ10.6cm
- 材質: 木
- 奉納地: 和歌山県 熊野本宮大社

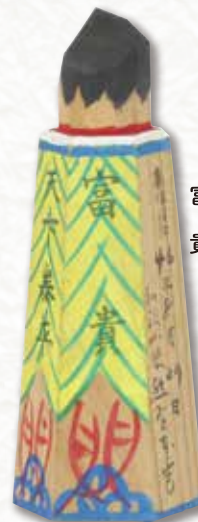
ある男性のものがたり

六角の柱塔状の独特な形状が目を引くこの資料は、「蘇民人形」あるいは「蘇民将来」と呼ばれる、疫病除けの護符です。

蘇民将来とは、『備後国風土記』内の説話に登場する人物名です。あるとき、北に住む疫神である武塔神が、南に住む神の娘のもとへ求婚に向かう道中に立ち寄った土地で宿を求めます。当地の裕福な巨旦将来は断り、その兄の蘇民将来は、生活は貧しかったものの、神を歓待しました。これに喜んだ神は、蘇民将来とその子孫は、茅の輪を腰の上につけるように指示します。やがてその土地では、蘇民将来一家を残して、みな災害や疫病で死んでしまったそうです。この説話から、蘇民将来は疫病除けの神とされるようになりました。



天下泰平



富貴



延命



四海静謐

日本各地に見られる蘇民将来

この資料には、各面に「蘇民将来子孫」、「天下泰平」、「富貴」、「延命」、「四海静謐」と記されており、疫病除けとともに世の安寧などを祈念したことが分かります。本資料は熊野本宮大社（和歌山県田辺市）から授与されたものです。このほか、各地の社寺で蘇民将来の信仰があります。信濃国分寺八日堂（長野県上田市）や八坂神社摂社の疫病社（京都府京都市）などでは、柳の木を短い六角形の塔状に削り、蘇民将来の子孫であることが記された護符を授与しています。黒石寺（岩手県奥州市）では、旧正月7日から8日にかけて、護符の入った蘇民袋を裸の男たちが奪い合う蘇民祭が行われます。

引用・参考

- ・岩井宏実 2017 「そみんしょうらい【蘇民将来】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・熊野本宮大社HP (<http://www.hongutaisha.jp/>) 2020年3月30日閲覧
- ・黒田一充 1999 「そみんしょうらい 蘇民将来」『日本民俗大辞典 上』 吉川弘文館